

法律研究會編纂

明治四十年

改正
新刑法註釋

東京 春江堂發行

1

第二編 罪	第十三章	第十二章	第十一章	第十章	第九章	第八章	第七章	第六章	第五章	第四章	第三章	第二章	第一章
	加減例	酌量減輕	共犯	累犯	併合罪	未遂罪	減免	犯罪ノ不成立及ビ刑ノ時効	假出獄	刑ノ執行猶豫	刑期間計算	刑法例	刑罰總則
	二三	二一	二〇	一九	一六	一六	一四	一二	一一	一〇	九	五	一

第十六章	第十五章	第十四章	第十三章	第十二章	第十一章	第十章	第九章	第八章	第七章	第六章	第五章	第四章	第三章	第二章	第一章	
通貨偽造ノ罪	飲料水ニ關スル罪	阿片煙ニ關スル罪	秘密ヲ侵スル罪	住居ヲ侵スル罪	往來ヲ妨害スル罪	往來ヲ妨害スル罪	溢水及ビ水利ニ關スル罪	放及ビ失火ノ罪	擾騷ノ罪	犯人藏匿及ビ證憑湮滅ノ罪	逃走ノ罪	公務ノ執行ヲ妨害スル罪	外交ニ關スル罪	外患ニ關スル罪	内亂ニ關スル罪	皇室ニ對スル罪
四二	四一	四〇	三九	三九	三七	三七	三六	三三	三三	三一	三一	二〇	二六	二六	二四	四



第十七章	文書偽造ノ罪	四五
第十八章	有價證券偽造ノ罪	四八
第十九章	印章偽造ノ罪	四八
第二十章	偽證ノ罪	五〇
第二十一章	誣告ノ罪	五〇
第二十二章	猥褻、姦淫及ビ重婚ノ罪	五一
第二十三章	賭博及ビ富籤ニ關スル罪	五三
第二十四章	禮拜所及ビ墳墓ニ關スル罪	五四
第二十五章	瀆職ノ罪	五五
第二十六章	殺人ノ罪	五七
第二十七章	傷害ノ罪	五八
第二十八章	過失傷害ノ罪	五九
第二十九章	墮胎ノ罪	六〇
第三十章	遺棄ノ罪	六一
第三十一章	逮捕及ヒ監禁ノ罪	六二
第三十二章	脅迫ノ罪	六二

第三十三章	略取及ビ誘招ノ罪	六三
第三十四章	名譽ニ對スル罪	六五
第三十五章	信用及ビ業務ニ對スル罪	六五
第三十六章	竊盜及ビ強盜ノ罪	六六
第三十七章	詐欺及ビ恐喝ノ罪	六八
第三十八章	橫領ノ罪	六九
第三十九章	贓物ニ關スル罪	七〇
第四十章	毀棄及ビ隱匿ノ罪	七一

註釋

法例ハ刑法ノ原則ニシテ效力ヲ規定シタルモノナリ

第一條ハ土地ノ範圍ニ關スル原則ヲ規定シ帝國臣民ナルト外國人ナルトヲ問ハズ國內ニ於テ罪ヲ犯シタルモノハ本刑法ノ制裁ヲ受クルナリ

第二條ハ帝國外ニ於テ犯シタル罪ニ付テモ我が刑法ヲ適用スベキ場合ヲ規定シタルモノナリ

國家ハ常ニ安全ニ生

改正新刑法註釋

第一編 總 則

第一章 法 例

第一條 本法ハ何人ヲ問ハズ帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス帝國ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

第二條 本法ハ何人ヲ問ハズ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

- 一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪
- 二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪
- 三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪
- 四 第四百十八條ノ罪及ヒ其未遂罪

存セントラ欲スルモノナラ故ニ國家ノ生存ヲ妨害スル者ハ犯罪者ニシテ之ニ刑罰ヲ加ヘテ其ノ侵害ヲ防禦セザルヘカラズ今若シ外國ニ於テ犯シタル罪ト雖モ苟モ我帝國ノ生存ヲ妨害セントスル場合又ハ我國民ノ損害ヲ生ズル罪ナルトキハ國家ノ生存ヲ維持セシガ爲メト國民ノ利益ヲ保護セシガ爲メトニ我刑罰權ヲ行ハザルヘカラズ

五 第五百五十四條第五百五十五條第五百五十七條及ヒ第五百五十八條ノ罪

六 第六百六十二條及第六百六十三條ノ罪

七 第六百六十四乃至第六百六十六條ノ罪及ヒ第六百六十四條第三項、第六百六十五條第二項、第六百六十六條第二項ノ未遂罪

第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

一 第八條第九條第一項ノ罪、第八條第九條第一項ノ

例ニ依リ處斷ス可キ罪及ビ此等ノ罪ノ未遂罪

二 第一百十九條ノ罪

三 第一百五十九條乃至第一百六十一條ノ罪

四 第六百六十七條ノ罪及ビ同條第二項ノ未遂罪

五 第七百七十六條乃至第七百七十九條、第八百八十一條及ビ第八十

四條ノ罪

第三條ハ生命、身体、自由、財産、又ハ信用ニ關スル罪其他放火罪又ハ未遂、文書、繪圖、印章ノ偽造又ハ男又ハ女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲナシタル者又ハ其ノ未遂、婦女ヲ姦淫シタル罪又ハ未遂、人ヲ殺シタル罪又ハ未遂、老者、幼者又ハ不具者ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サザル罪、逮捕又ハ監禁ノ罪、人ヲ招取シ又ハ被招取者ヲ藏匿ノ罪

六 第九十九條、第二百一一條ノ罪及ビ其未遂罪

七 第二百四條及ビ第二百五條ノ罪

八 第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪

九 第二百十八條ノ罪及ビ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

十 第二百二十條及ビ第二百二十一條ノ罪

十一 第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪

十二 第二百三十一條ノ罪

十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至

第二百四十一條及ビ第二百四十三條ノ罪

十四 第二百六條乃至第二百五十一條ノ罪

十五 條二百五十三條ノ罪

十六 第二百五十六條第二項ノ罪

第四條ハ仲裁人ガ収賄ノ罪、公務員又仲裁人ガ偏頗ノ處分ヲ爲シタル罪又看守者ガ護送者ガ被禁者ニ對シ暴行ヲ爲ストカ其犯人ノ居處ガ失火其他天災ニ罹リタルトキ其ノ災ニ罹ラシメシムヲ爲サハル罪

第五條ハ外國ニ於テ犯シタル罪ヲ外國獨リ罪トスルト外國ニ於テ犯シタル罪ヲ我國獨リ罪トスルト外國ニ於テ犯シタル罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

- 一 第一百一條ノ罪及ビ其未遂
- 二 第五十六條ノ罪
- 三 第九十三條、第九十五條第二項、第九十七ノ罪及ビ九十五條第二項ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル罪

第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ放ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレ刑ノ全部

又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ

適用ス

適用ス

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ従事スル議員、委員其ノ他職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス

但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限りニ在ラズ

第二章 刑

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ビ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス

第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルト

我國獨リ罪トスルト外國ニ於テ犯シタル罪ヲ外國及ヒ日本モ國法ニ從ヒ處罰スベキトアリ

第六條ハ舊第三條ヲ其輕キモノヲ適用スト修正シテ補ヘリ

第七條ハ其種類多クシテ一々之ヲ列舉スルコト能ハズ

第八條ハ特別法ニシテ陸海軍人ニノミ適用スルモノナリ其他特別ノ身分ヲ有スル者ノ爲メニ設ケル法律ヲ特別法トス

第九條ハ死刑ヲハジメ科料ノ六種ト没収ヲ附加刑トシタリ
 第十條ハ刑罰中最モ重キハ死罰トス人トシテ其生命ヲ奪フハ世人其所爲ヲ傲フ者ノ戒メト爲スニアリ
 第十一條ハ死刑ノ執行ニ關スル規定ナリ
 死刑ハ監獄内ニ於テ之ヲ執行シ決シテ公ノ場所ニテスルコトヲ許サズ
 第十二條ハ國事犯者ト雖モ優待セザルニ至レリ

キハ禁錮ヲ以テ重シトス
 同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス
 二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ビ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム
 第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス
 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス
 第十二條 懲役ハ無期及ビ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス
 第十三條 禁錮ハ無期及ビ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス禁錮ハ監獄ニ拘置ス
 第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至

第十三條ハ舊法ト異ナル所ナシ只多クノ刑名ヲ附セズ
 第十四條ハ新法ガ特ニ本條ヲ設ケタル所以ナリ
 第十五條ハ罰金ヲ二十圓トシ科料ヲ二十圓未滿トス
 第十六條ハ懲役、禁錮ハ一月以上拘留ハ一月未滿トス
 第十七條ハ舊法ニハ科料ヲ五錢以上壹圓九十五錢以下ト定メ加重ノ結果二圓四十錢ニ至ルニ過ギザル

ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得
 第十五條 罰金ハ二拾圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二拾圓以下ニ降スコトヲ得
 第十六條 拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘置ス
 第十七條 科料ハ拾錢以上二十圓未滿トス
 第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス
 科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス
 科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルトヲ得ス
 罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可

ヲ以テ新法ハ十錢以上二十圓未満トナシタリ
 第十八條ハ罰金ヲ徵收スル場合犯人無資力ニシテ之ヲ納ムル不能ハザ者ル及ビ拒ム者ハ勞役場ニ留置シテ其自由ヲ制限スルト共ニ便宜勞役ニ從事セシメ其ノ得タル勞銀ヲ以テ罰金又ハ科料ニ充テ、一日モ早ク留置所ヲ出ツルコトヲ得セシムルモノトス
 長期ニ達スル場合ニ

於テハ其期限ヲ二ヶ月ニ制限シタリ
 第十九條 二者ノ手中ニアル場合ヲ除キ犯人ニ屬スル場合及ヒ所有者不明ナル場合モ之ヲ沒ス
 第二十條ハ舊法ニ見ザル規定ナリ
 第二十一條ハ拘留日數ニ付テ之ヲ刑期ニ算入スルコトヲ許シタレドモ判決以前ノ拘留ハ犯人ノ損失ニ歸スベキモノトス
 第二十二條ハ禁錮一ヶ月ヲ三十日ト定ム

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日内本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス
 罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス
 留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ
 留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス
 第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得
 一 犯罪行為ヲ組成シタル物
 二 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物
 三 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル
 第二十條 拘留又ハ科料ノヨニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此ノ限リニ在ラス
 第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

第三章 期間計算

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス
 第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス
 拘留セラレザル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス
 第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ初日亦同シ

第二十三條ハ舊法ニ於テハ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スルコト、規定セリ新法ハ大ニ異ナルナリ

第二十四條ハ犯人何時執行ヲ受クルモ一日ト定メ刑期放免ハ終了翌日ト定ム

第二十五條ハ七年以内ニ更ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ニモ恩典ヲ與フルモノトス其ノ主意ハ犯罪以後七年ニ亘ルノ久シキ品行ヲ慎ミ再犯ノ情

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第四章 刑ノ執行猶豫

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

- 一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
- 二 前條禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スベシ

- 一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ

ナカリシ者ナルニ因ルナリ

第二十六條ハ一旦與ヘタル執行猶豫ノ事由ヲ規定シタルナリ

第二十七條ハ猶豫期間ヲ經過シタルトキハ其刑ノ執行ハ終ニ免除セララル、モノトス而シテ執行猶豫ヲ取消スベキ事由ハ更ニ罪ヲ犯ストカ又ハ要件ヲ具備セザルノ發覺シタルトニヨ

第二十八條ハ懲役又ハ禁錮ニ處セラレ獄

- 二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

- 三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サル、コトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

第五章 假出獄

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

- 一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

中ニ在ル者ト雖モ改
悛ノ狀現ハレタルト
キハ行政處分ヲ以テ
假ニ出獄ヲ許スコト
ヲ得

第二十九條ハ假出獄
ノ取消スベキ原由ヲ
規定シタルモノアリ
第三十條ハ罰金又科
料ヲ完納スルコト能ハ
ザルガ爲メニ留置セ
ラレタルモノモ相當
ノ事由アルトキハ其
執行ヲ免除スルコト
ヲ得トアリ

二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレ
タルトキ
三 假出獄前他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ
其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ
四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ
假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セズ
第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政
官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得
罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦
同シ

第六章 時 效

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得
第三十二條 時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケ

ヲ改メタルモノニシ
テ其意ニ異ナルコトナ
シ死刑ハ爲メニ生命
ヲ得、懲役ハ身体ノ
自由ヲ檢束セラル、
コトヲ免レテ無罪ノ
人トナリ罰金ハ之ヲ
納ムルニ及バサルガ
如キ必ズ刑ノ上ニ免
ル、コトヲ得ベキモ
ノナリ

第三十二條ハ刑ノ言
渡シ確定シタル後ヨ
リ本條ニ掲ゲタル期
間内ニ其執行ヲ受ケ
ザルニ因リ期間滿了
シテ刑ヲ免ル、モノ

サルニ因リ完成ス
一 死刑ハ三十年
二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年
三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、
三年未満ハ五年
四 罰金ハ三年
五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年
第三十三條 時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期
間内ハ進行セズ
第三十四條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中
斷ス
罰金、科料及ヒ沒收ノ時効ニ執行行為ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷
ス

第三十三條ハ犯人逃走シテ不法ニ刑ノ執行ヲ免レタル者ニ付テノ規定ナリ

第三十四條ハ罰金科料沒收刑ノ時効ノ中斷方法ナリ

第三十五條ハ正當ノ業務ニヨリ爲シタル行爲ハ罪トナラズ例ヘバ醫師ガ手術上人ヲ死ニ致ラシムトモ罪トナラズ

第三十六條ハ正當防衛ニシテ例ヘバ贓品ヲ取返サント殺傷ス

第七章

犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セズ

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ放衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セズ

放衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エザル場合ニ限リ之ヲ罰セズ但其程度ヲ起エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ業務アル者ニハ之ヲ適用セズ

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セズ但法律ニ特別ノ規定

ルハ無罪ナルモ何物竊取セザル者ヲ殺傷シタルハ免除スルコトヲ得ザルナリ

第三十七條ハ警官又ハ船長ガ自己ノ危難ヲ免カル、爲メ其ノ保護ノ下ニアル者ノ生命ヲ損スルモノ、如キハ職務ヲ以テ却テ他ヲ害スルニ至レバナリ

第三十八條ハ無意犯トテ例ヘバ處女ナリト信ジテ通ジタルニ有夫ノ婦ト姦通シタル場合又隣家ノ者ヲ

アル場合ハ此限ニ在ラズ

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラザル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラザルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第三十九條 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セズ

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條 瘡腫者ノ行爲ハ之ヲ罰セズ又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條 十四歳ニ滿タザル者ノ行爲ハ之ヲ罰セズ

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セザル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ者ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

殺サントシテ自己ノ兄弟ヲ殺シタル場合ハ有夫姦殺人犯ノ責ハ免カレヌモ加重ノ情狀ヲ構成シタルハ犯人ノ錯誤ニ出デタル所爲ナリ

第卅九條ハ精神病者泥酔者幼者ハ減輕ス

第四十條第四十一條ハ前條ニ同シ

第四十二條ハ罪ヲ犯シ自首タル者ハ減輕

第四十三條第四十四條ハ未遂罪ナリ

第四十五條ハ裁判ノ前後ヲ問ハズ發覺シ

第八章 未遂罪

第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケザル者ハ其刑ヲ減輕スコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第九章 併合罪

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラズ

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ビ沒收ハ此限ニ在ラズ

タル罪ヲ併合スルニアリ

第四十六條ハ無期懲役、死刑ハ重キ刑ナレバ併科ハ罰金科料トシテ徵收ス

第四十七條ハ最モ重キ罪ニ對スル刑ト他ノ罪ノ刑ヲ加ヘルトキハ其重キ刑ニ之ガ半ヲ加ヘタルモノヨリ長キトキハ併合罪ノ長期ヲ加ヘタルモノニ超ユルトキヲ得ザルモノトスルハ但書ノアル所以ナリ

第四十八條ハ二個以

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ズ

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラズ

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經ザル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

上ノ罰金ハ其罰金ヲ
 合算シテ其金額以下
 ニ於テ處斷スルナリ
 第四十九條ハ附加罰
 ノ規定ナリ
 第五十條ハ未タ裁判
 ヲ經ザル罪ノ罰ヲ以
 テ處斷スルモノトス
 第五十一條ハ第四十
 六條第四十七條ノ規
 定スル處ナリ
 第五十二條ハ併合罪
 ニシテ大赦ヲ受ケザ
 ル罪ニハ刑ヲ定メテ
 科スルモノト
 第五十三條ハ重罪ト
 同時ニ發覺シタル場

第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併
 セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ
 執行セズ無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ビ
 沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最
 モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超コ
 トヲ得ス
 第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケ
 タル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受サル罪ニ付キ刑ヲ定ム
 第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ
 場合ハ此限ニ在ラス
 二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之セ併科ス
 第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若
 クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ル、トキハ其最モ重キ刑ヲ

合ニハ併セテ科スル
 モノトス
 第五十四條ハ例ヘバ
 人ノ家ヘ侵入シテ窃
 盜ヲ行フトカ強姦ヲ
 行フガ如キニシテ最
 モ重キ罪トス
 第五十五條ハ連續シ
 タル行爲ガ數個アル
 場合ニハ一罪トシテ
 處斷スルモノトス
 第五十六條ハ再犯ハ
 刑ヲ加重スル爲メニ
 設ケタル規定ナリ初
 犯ヨリ五年内ニ更ニ
 有期懲役ニ該ル罪ヲ
 犯セバ之レニ再犯例

以テ處斷ス
 第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
 第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ル、トキ
 ハ一罪トシテ之ヲ處斷ス
 第十章 累 犯
 第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ア
 リタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之
 ヲ再犯トス
 懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免
 除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ
 若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有
 期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ
 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリ

ヲ適用スベキモノトシテ第二項ノ規定アリ所ナリ

第五十七條ハ再犯ヲ防グ爲メニ加重ノ分量ヲ増加シ其罪ニ付キ定メタル刑期ノ二倍以下ヲ以テ再犯ト定メタルナリ

第五十八條ハ裁判ノ當時再犯ヲ隱蔽シテ其後發覺スルニ至レバ更ニ其刑ヲ加重スルコトヲ規定シタルモノナリ

第五十九條三犯以上ト雖モ別ニ加重例ヲ

タルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付キ前項ノ規定ヲ適用セス

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

第十一章 共犯

設クル必要ナシトシタルモノナリ

第六十條ハ正犯從犯トシ正犯ハ各自ニ其刑ヲ科シ從犯ハ一等ヲ減ズ

第六十一條教唆トハ知人ニ對シ犯罪實行ナサシムヲ云フ

第六十二條從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ストシタルハ前條ノ例ト同シ

第六十三條正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第六十四條ハ處罰ス必要ナシトス

第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ其犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第十二章 酌量減輕

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量

第六十五條ハ身分ニ因リテ罪ヲ構成ストアリ

第六十六條ハ病中ニ藥ヲ窃取スルガ如キヲ酌量トナス

第六十七條ハ重キ罰ハ酌量スルモ輕キ罰ハ減ゼザルニアリ

第六十八條ノ改正法ハ刑ノ範圍極メテ大ナルヲ以テ之ヲ減輕スルトキハ非常ノ刑ヲ輕クスルコト爲ルヲ以テ縱合輕減ノ原因ガ多クアル場合ト雖モ之ヲ合シテ一ト

減輕ヲ爲スコトヲ得

第十三章 加減例

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

- 一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス
- 四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ズ
- 五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ズ
- 六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ズ

ト爲シ一度ヲ刑減輕スルニ止ムルナリ此ノ減輕方法ハ一號ヨリ六號マデノ間ニ減輕スルモノトス

第六十九條懲役禁錮罰金ノ刑名ハ其中ノ一ヲ擇バシム

第七十條注ヲ用セズ

第七十一條右ニ同シ

第七十二條本條ハ同時ニ刑ヲ加重減輕ス

ベキトキノ順序ヲ規定シタルモノナリ

第七十三條皇室ニ對スル罪ハ列記シ奉リタル天皇陛下以下皇

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第七十條 懲役禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

第七十一條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序依ル

- 一 再犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 量酌減輕

孫殿下ニ對シ奉リテ
 犯ス罪ナ云フ此罪ナニ
 種ニ分ツテ即チ危害
 ヲ加ヘ又ハ加ヘント
 スル者ノ罪是レナリ
 第七十四條不敬ノ所
 爲トハ齒簿ヲ拜スル
 際樹木ニ登リ又ハ高
 キ階上ヨリ拜セント
 スル者ハ不敬ノ罪ト
 ハナラザルモ謹ムベ
 キナリ
 第七十六條ハ前條ノ
 如ク
 第七十七條國事犯ト
 ハ政事的犯罪ニシテ
 内亂ニ關スル罪ナリ

第二編 罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ
 對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス
 第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ
 對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
 神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ
 第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘ
 ントシタル者ハ無期懲役ニ處ス
 第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下
 ノ懲役ニ處ス

第二章 内亂ニ關スル罪

例ヘハ政府顛覆スル
 トカ朝憲ヲ紊乱スル
 トカノ事ナリ
 第七十八條内亂ノ豫
 備トハ兵ヲ集メ又ハ
 兵器、金穀ヲ準備ス
 ルトカ軍備ヲ調査ス
 ル等ヲ云フ又陰謀ト
 ハ二人以上相集リテ
 犯罪行爲ヲ謀議計畫
 スル等ガ外形ニ現ハ
 レタル舉動ニシテ之
 ヲ犯罪進行ノ程度ヨ
 リ云フトキハ決心ヲ
 狀況ニ在ルヲ云フ
 第七十九條第八十條
 内亂ノ害ハ至大ナル

第七十七條

政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊乱スルコ
 トヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從
 テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無禁錮ニ處ス
 - 二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年
 以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上
 十年以下ノ禁錮ニ處ス
 - 三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮
 ニ處ス
- 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在
 ラス

第七十八條 内亂ノ豫備ハ又陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下
 ノ禁錮ニ處ス

ヲ以テ特ニ之ガ害悪ノ生セザルル防ガシト欲シテ自首ノ獎勵スルニアルナリ

第八十一條 安寧ヲ危フクスル罪ヲ云フ本罪ハ戰時ニ限ル

第八十二條 我ガ國ニ背叛シテ不忠ノ徒ナレハ前條ニ同一又ハ無期懲役ニ處スルモノトス

第八十三條 前條ノ如ク敵國ニ交付シタルニ非ザルモ敵國ニ便利ヲ與ヘル目的ヲ以テ本條ニ記載スル物

第七十九條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第三章 外患ニ關スル罪

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十三條 敵國ヲ利スルガ爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハザルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタルモノハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之罰ス

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ

軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ日本國ノ軍用ヲ害スル者前ト同一ナリ

第八十四條 例ヘハ糧食兵馬石炭ヲ敵國ニ交付シタル者前條ノ罪ニ比スレハ輕シ

第八十五條 敵國ヘ自國ノ事實ヲ間諜ス此等ノ者ニ對スル罪ハ重罪ナリ

第八十六條 敵國ヘ軍事上ノ利益ヲ與ヘルハ賣國奴ノ一種ナリ

第八十七條 同未遂罪

第八十八條 註ヲ畧ス

クハ使用スルコト能ハザルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタルモノハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之罰ス

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ

第八十九條 我國ト英國ノ如キ戰時同盟ノ條約アリ

第九十條 侮辱ヲ受ケタル君主又ハ大統領ガ宥恕シタル場合ハ國際問題トナラズ
第九十一條 罪ヲ犯シタル者ハ本條ノ規定ニ從テ處罰スベキナリ但侮辱罪ハ被害者ノ請ヲ待テ其罪ヲ論ズ
第九十二條 外國ノ君主ニアラズ一國ニ對シテ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テノ罪ヲ犯ス者ニ付テノ規定ナリ

陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第四章 國交ニ關スル罪

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス
第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス
第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞 除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓

第九十三條 豫備トハ如何ナル程度迄ヲ戰鬪ノ着手ニ至ル迄ノ行爲ニシテ兵器ヲ準備シタル場合ヲ云フ
第九十四條 兵器彈藥其他石炭等ヲ給與スルガ如キハ當然ノ違背ナリ

第九十五條 公務員ノ職務執行ノ安全及ビ公務所ノ尊嚴ヲ保護スル目的ヲ以テ規定シタリ
第九十六條 封印又ハ標本ヲ無効ナラシメタル者ハ本條ヲ以テ

以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ爲ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス
第九十四條 外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲サザラシムル爲ニ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ
第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ

罰スルモノトス
 第九十七條 既決ノ囚モ未決ノ囚モ逃走ハ同罪ナリ
 第九十八條 註ヲ略ス第九十九條 奪取スルニハ監督者ノ隙ヲ窺ヒ若クハ監督者ニ抗拒シテ之ヲ遂クル者ハ逃走罪ニ一等ヲ加重スルモノナリ
 第一百條 囚人ノ逃走ヲ幫助シタル者又ハ逃走セシムルノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ前條同一ノ刑ニ處スベキモ

懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六章 逃走ノ罪

第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下

ノトス

第一百一條 看守又ハ護送者ガ逃走セシメタルヲ云フ

第一百二條 重大ナルモノ故ヘ未遂ヲ罰スルモノトス

第一百三條 隱避トハ隱匿ノ場所ヲ與ヘシムトカ旅費ヲ給スルトノ如キ是レナリ

第一百四條 罪証トナルベキ物件例ヘハ死体刀劍、衣類、竊盜用具ヲ云フ

第一百五條 親族トハ父母祖父母兄弟妻子孫

ノ懲役ニ處ス

第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七章

犯人藏匿及ヒ證據湮滅ノ罪

第一百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證據ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若クハ偽造、變造ノ證據ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

等ヲ云フ

第六百六條 博徒又ハ強盜ノ如キ者ヲ集ムルニアラズシテ良民ト雖モ其目的モナク之ヲ遂ケントシテ多衆聚合シ暴行ヲシタルヲ云フ

第六百七條 多衆聚合シタルモ公務員ノ説諭ヲ受ケテ解散スル者ハ其罪ヲ論セズ
第六百八條 永久ト一時ノ滞在トヲ問ハズ現ニ住居スル家屋ニ火ヲ放ツ其際留守中ナルモ現ニ使用居ル者

第八章 騷擾ノ罪

第六百六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁

ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 放火及ヒ失火ノ罪

第六百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物

ナレバノ意ニシテ現字ニ注目スベシ

第六百九條 自己ノ所有ニ係ル物ヲ燒燬スルモ有罪タルベキ理由ハナキガ放火ハ他人ノ物ニ延燒スルノ虞レアルヲ以テナリ
第六百十條 一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處スルモノナリ

第六百十一條 自己ノ所有ニ係ル物ニ火ヲ放テ燒燬スルモ他人ノ所有物ニ危険ヲ及ボサザル時ハ罪輕キモ

汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第六百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セズ又ハ人ノ現在セザル建造物艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危険ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

第六百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六百十一條 第六百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第六百八條又ハ第六百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ物ヲ燒燬シタル時ハ其罪重シ
 第百十二條 放火ノ既遂未遂ハ諸説ニ分レタレバ略ス
 第百十三條 略ス
 第百十四條 本條ハ騷擾ノ機トシテ竊盜ヲ爲ストカ怨恨アル家屋ヲ燒クト云フ者往々アルヲ以テ新ニ之ヲ設ケタルナリ
 第百十六條 過失ニ因テ火ヲ失シタル場合ニ關スル規定ナリ
 第百十七條 故意ニ出デタル者ハ放火罪ニ

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルキハ三年以下ノ懲役ニ處ス
 第百十二條 第百八條及ビ第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第百十三條 第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得
 第百十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 第百十五條 第百九條第一項及ビ第百十條第一項ニ記載シタル物自巳ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ
 第百十六條 火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ

準シ過失ノ場合ハ火失罪ニ準ズ
 第百十八條 第二項ハ前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ其情重クシテ之ヲ過失傷害罪ト爲スハ輕キニ失スルヲ以テ之ヲ傷害罪ニ問フベキモノトシタルナリ
 第百十九條 溢水トハ水門ノ鎖ヲ開キ之ヲ開放シテ洪水ヲ出スヲ云フ例ハ堤坊ヲ破壞シテ一時ニ水ヲ濫出シシムルガ加

係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ
 第百十七條 火藥、瀋罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十一條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ公共ノ危險ヲ生セシメタル亦同シ
 前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ
 第百十八條 瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三

キ之レナリ
 第二十條前條ニ記載シタル以外ノ物トハ田圃、牧場、公園、ノ如キモノニシテ其侵害ヲ及ボシタル區域ノ廣キニ涉ル場合ヲ云フ
 第百廿二條前二條ハ水火ノ異ナルノミ故ニ説明ニ依リテ解釋スレバ自ラ明カナリ
 第百廿三條水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲トハ水利ハ水ノ使用ニ便ナルヲ云フモノニシテ田畑等ニ灌漑ス

年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第十章 溢水及ビ水利ニ關スル罪

第百十九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住屋ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、氣車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百二十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル
 第百二十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞若シクハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

ルニハ此便利ヲ必要トル物ヲ妨害スルヲ云フ
 第百廿四條 損壞トハ橋梁ナドニ損處ヲ生セシムルヲ云フ壅塞トハ陸路又ハ水路ニ障害物ヲ置キ往來ノ妨害ヲ生ズルヲ云フ
 第百廿五條 鐵道線路ノ目印トカ關號トカ電車ノ往來ヲ妨害スルトカハ其例ノ罪ニ處スルモノナリ
 第百廿六條 氣車、電車、ヲ顛覆シ艦船ヲ覆没又ハ破壞シタル

第百二十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタルヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第百二十三條 堤坊ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

第百二十四條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生シセメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス
 第百二十五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ氣車又ハ電車ノ往來ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ

場合ハ皆コノ中ニ包
合ス

第百廿七條 汽車電車
ヲ顛覆シ又ハ艦船ヲ
覆没シテ人ヲ死ニ至
ラシメタルトキハ前
條ニ同シ

第百廿八條 未遂罪ト
シテ罰スベキ場合ハ
各本條ニ於テ規定ス
ルコト、爲シタルモ
ノナリ

第百廿九條 職務ニ不
注意ナルヨリ人ニ危
害ヲ生セシメタルト
キモ過失ナリトシテ
其罪ヲ輕クスルトキ

處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危険ヲ
生シセメタル者亦同シ

第百二十六條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壊シタル者
ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壊タシル者亦同シ
前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ
處ス

第百二十七條 第百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若
クハ破壊又ハ艦船ノ覆没シ若クハ破壊ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ
同シ

第百二十八條 第百二十四條第一項、第百二十五條及ビ第百二十六
條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

ハ職務ヲナテ無責任
トスルニ同ジキヲ以
テ一般ノ人ノ過失ヨ
リ其罪重カルベキコ
ト至當ナリ

第百三十條 家宅侵入
ハ晝間ト夜間トヲ問
ハザルナリ

第百三十一條 皇居ハ
陛下ノ御住居ナリ禁
園ハ皇居ノ御遊園ナ
リ離宮ハ別ニ離レタ
ル場所ニアル假ノ御
住居ナリ

第百卅二條 註セズ
第百卅三條 信書ハ開
封スルヲ許サズ

第百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セ
シメ又ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊
ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
其業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又
ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二章 住居ヲ侵ス罪

第百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ
艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以
下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者
ハ三年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ
第百三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百卅四條 漏泄トハ醫師ガ傳染病患者ヲ官ニ届出デサルガ如キ之レナリ

第百卅五條 註セズ第百卅六條 阿片煙ノ如キ人ノ健康ヲ害スル最モ甚タシトス故ニ法律ヲ以テ之ヲ嚴禁セザレバ防グコト能ハズ

第百卅七條 罪ヲ犯スニハ一人ニテ成立スルカ如キモ必ズ輸入スル者製造スル者販賣スル者ノ三個ヲ牽連シテ犯スナリ

第十三章

秘密ヲ侵ス罪

第百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、産婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗致若クハ禰祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

第百三十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四章

阿片煙ニ關スル罪

第百三十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ

第百卅八條 註セズ

第百卅九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ比較的重キ罪ニ處スルモノトス

第百四十條 阿片煙吸食ノ器具ヲ所有スル者ハ罰セラル

第百四十一條 吸食ノ器ヲ買求メテ既ニ吸食スベキニ至リタルトキノ場合ナリ

第百四十二條 汚穢シトハ不潔物ヲ投入シ又ハ濁水ト爲シテ飲料ニ用ヒルヲ能ハザルトキ

以テ之ヲ所持タル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十八條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス 阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五章

飲料水ニ關スル罪

第四百二十三條 水源水ヲ汚穢シタル者ハ其害ノ及ブ所廣キガ故ヘ其罪モ亦重シ

第四百四十四條 清水中ニ毒物又ハ健康ニ害スル物ヲ混入シタルトキハ罪重シ

第四百四十五條 前三條ノ結果人ヲ病ニ致ラシムル時ハ罪重シ

第四百四十六條 人ヲ死ニ致ラシメタル者ハ死刑トス

第四百四十七條 公衆ノ飲料缺乏ヲ來シタル時ノ罪ナリ

第四百四十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百四十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百四十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第四百四十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以

第四百四十八條 偽造變造ノ罪尤モ多シ略ス

第四百四十九條 前條ニ同シ

第四百五十條 賈ヒ受ケタルモ受取リタルモ情ヲ知リテ使行スルモノヲ收得ト云フナリ

第四百五十一條 前三條ノ如キ既ニ器械等ヲ準備シテ最早罪ヲ成スニ至リタル場合ナリ

第四百五十二條 惡意ニ非ラズシテ之ヲ官ニ告ゲズ使用スル者ナ

上ノ懲役ニ處ス

第四百四十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章 通貨偽造ノ罪

第四百四十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第四百四十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第四百五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券

第百五十三條 註畧ス
 第五十四條 偽造ハ變
 造トハ其行爲ニ於テ
 差異アルモノナレド
 モ目的スル意思ニ於
 テハ異ナル所ナキ故
 へ其罪同一ナリ
 第百五十五條 印章又
 ハ文書、繪圖ヲ偽造
 等其類多クシテ述ベ
 難シ
 第百四十六條 目的ナ
 キモ偽造ガ直チニ犯
 罪ヲ成立スルトキハ
 行使ノ目的ヲ以テノ
 八字ヲ用フルヲ要セ

ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
 第百五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第百五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變
 造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付
 シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降
 スコトヲ得ス
 第百五十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル
 目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲
 役ニ處ス
 第十七章 文書偽造ノ罪
 第百五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ
 詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ
 使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲

ザルナリ
 第百五十七條 虛偽ノ
 申立ヲ爲シ免狀、鑑
 札又ハ旅行券ニ不實
 ノ記載ヲ爲サシメタ
 ル者ナリ例へハ屬籍
 身分氏名ヲ詐稱シ其
 他詐僞ノ所爲ヲ以テ
 免狀鑑札ヲ受ケタル
 モノヲ云フ
 第百五十八條 改正法
 ハ行使ノ目的ニ出デ
 タル文書ノ偽造罪ヲ
 罰スルヲ以テ之ヲ行
 使シタル者ノ處分ヲ
 必要トスルノミナラ
 ズ此種ノ罪ノ未遂ハ

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シ
 タル者亦同シ
 第百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署
 名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造
 シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ
 公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一
 年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造
 シタル者亦同シ
 前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ
 又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者
 ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若

印造偽造罪ニ問別ス
ベカラザルヲ以テ其
未遂ヲ罰スルモノト
ス

第百五十九條行使ノ
目的ヲ以テ他人ノ印
章若クハ署名ヲ使用
シ即チ偽造行使シテ
他人ノ印章ノ如ク信
認セシムルニ足ルベ
キモノヲ用ヒテ左ノ
事實ヲ偽リタルヲ以
テ其罪ヲ成スモノト
ス

第百六十條本條ノ規
定ハ醫師ガ証明ノ作
製ノ名義ヲ詐ルニ非

クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署
名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第百五十七條 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル
公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役
又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載
ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ
其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ
作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シ

ズシテ疾病證書作成
ノ囑託ヲ受ケタル醫
師ガ證書ヲ作成スル
ニ當リ虛偽ノ事實ヲ
記入スルナリ例ヘバ
徵兵忌避者ノ囑託ヲ
受ケテ故意ニ病疾ノ
証書ヲ作製シテ之ヲ
免レシメンコトヲ謀
リタルガ如シ其他公
務上ニ必要アル診斷
書ニ詐僞ノ疾病証書
ヲ造リタルヲ云フ

第百六十一條本條ハ
單ニ行使シタル者ト
偽造又ハ變造シタル
者ト不實ノ記載ヲ爲

權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽
造シタル他人ノ印章若ク署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明
ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲
役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實
證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二條ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽
造又ハ變造シタルモノハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處
ス

第百六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書
ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ
罰金ニ處ス

第百六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ

サシメ若シクハ虚偽ノ記載ヲ爲シタルト同一刑ナリ
 第六十二條 虚偽ノ記入トハ其形式上ノ事項ハ備ハレリト雖モ其文面ニシテ偽リアル場合ヲ云フモノナリ
 第六十三條 偽造ト相待ツテ犯罪ヲ成スナリ
 第六十四條 印章ヲ使用スルハ偽造者其者ノ使用スル場合ト偽造者ト使用者ト異ナル場合ハ一人ハ使

其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス
 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八章 有價證券偽造ノ罪

第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

第六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虚偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九章 印章偽造ノ罪

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
 御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽、又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
 公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
 公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

第六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者亦同シ

用罪一人ハ偽造罪トス然レドモ一人ナルトキハ使用ハ偽造ニ含シテ一罪トス
 第六十五條 註略ス
 第六十六條 例ヘバ大藏省圖書之印トシテ書籍ニ押用スルカ如ク又ハ產物ニ押捺スルモノヲ指ス此等ノ記號ヲ民間ノ物品ニ押用シテ官物ノ如ク裝フコトナリ本條ハ行使スル目的ヲ又テ此ノ記號ヲ偽造シタル場合ヲ規定スルナリ

第六十七條本條ハ私印ヲ偽造スル場合ヲ規定シタリ然レドモ加藤清正又ハ菅原道實印ノナドハ罪トナラズ

第六十八條意義視易キヲ以テ別ニ註セズ

第六十九條法令ニ依リ宣誓シトハ法律命令ノ定ムル所ナリ

第七十條懲戒處分トハ官吏ガ職務ヲ瀆シタル場合ニアリ

第七十一條註セズ

第七十二條犯罪ア

ル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用タル者亦同シ

第六十八條 第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十章 偽證ノ罪

第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

第二十一章 誣告ノ罪

七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ

七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

リト官へ申告スル者不實タルコト惡意アルコト此ノ三個ノ要素ナカルベカラズ

第七十三條註セズ

第七十四條公然トハ其區域甚々廣シ白晝ニ風俗ヲ亂ストカ途上ヨリ見ルベキ場所トカ皆公然ナリ

第七十五條猥褻ナル文書トハ淫事ヲ甚ダシク醜體ニ書キタル書冊又ハ圖畫トハ春画又ハ淫部ヲ顯ハシタル繪葉書ヲ云フ

第七十六條本條ハ

未タ覺知ナキ者ナレ
バ承諾ノ上タリトモ
其罪重シ

第百七十七條強姦ノ
罪ハ婦女ノ意ニ反シ
テ強ヲ之ヲ姦シ其節
操ヲ破リ其身ヲ汚辱
セラル、ガ故ヘナリ

第百七十八條藥酒ヲ
用ヒテ昏醉セシメ事
理ノ心ヲ失ハシメ獸
行ヲナスモノ前二條
ノ如シ

第百七十九條甚々難
事ノ場合アリヲ註セ
ズ
第百八十條檢事ノ

第百七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル
者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル
婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第百七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘ジ又ハ之ヲシテ心
神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ
姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

第百七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第百八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
第百八十一條 第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ
死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦
淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第百八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其

公訴ニ依リテ其罪ヲ
論ズ

第百八十一條註略ス
第百八十二條婦女ニ
勸メテ淫ヲ賣ラシメ
タル者ハ罪ニ處ス

第百八十三條縱容シ
タル姦通ハ效ナシ
第百八十四條本條ハ
種々アリテ述ベ難シ

第百八十五條娛樂ニ
供スル物ヲ賭シタル
者ハ罰セズ
第百八十六條開帳ト
ハ親分ト稱スルモノ
自身ハナサツモ寺錢
ヲ得ル者ナレバナリ

相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルト
キハ告訴ノ效ナシ

第百八十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下
ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

第二十三章 賭博及ビ富籤ニ關スル罪

第百八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタ
ル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ
賭シタル者ハ此限ニ在ラズ

第百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ
懲役ニ處ス
賭博場ヲ開帳シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五
年以下ノ懲役ニ處ス

第百八十七條 富籤ヲ爲スハ僥倖心ヲ增長セシメ竟ニ遊惰ニ陥ル害アレバナリ

第百八十八條 日本ノ如キハ神國ト稱シテ神多シ佛教モ耶蘇教モ包含セルナリ

第百八十九條 註略ス第百九十條 藏置トハ入レテアル物ヲ遺棄シタルナリ

第百九十一條 墳墓ニ埋葬シタル死體、遺骨ヲ發掘シテ損壞シ遺棄シ又ハ領得シタル者ノ罪ヲ規定シタル

第百八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤ヲ發賣ノ取次爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第百八十八條 神祠、佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若シクハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

ルナリ

第百九十二條 檢視ヲ經ズシテ變死者ヲ葬ル者ノ規定ナリ

第百九十三條 公務員ガ人ヲシテ義務ナキヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトニ在リ

第百九十四條 裁判官檢察官、警察官ノ職務ヲ補助スル者トハ市町村長等ノ者ヲサスナリ

第百九十五條 刑事被告、囚人、監置人、留置人、懲治人ニ對

第百九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞シ遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十一條 第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞シ遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十二條 檢視ヲ經ズシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五章 瀆職ノ罪

第百九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第百九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下

スル暴行又ハ陵虚ノ行爲ヲナシタルトキモ其一例ナリ
 第九十六條 普通人ノ爲シタル行爲ニ比シテ重キハ至當ナリトス
 第九十七條 官吏ガ收受シタル賄賂ハ發覺シタルトキハ其全部又ハ一部ヲ沒收スルモノトス然ルニ沒收スルコト能ハザルニ至ラバ其價額ヲ以テ沒收ス
 第九十八條 贈與トハ官吏ニ之ヲ求メ

ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 第九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虚ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス
 第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一

ザルニ自ラ贈ルモノ提供トハ要求ニ依ルモノナリ
 第九十九條 殺人トハ他人ノ生命不正ニ破壊スルコトナリ
 第一百條 直系尊屬ノ如キハ人倫ノ最モ重ンズベキ血族ナレバ是等ノ人ヲ殺スハ最モ殘忍酷薄ノ行爲ナレバナリ
 第一百一條 殺人罪ノ未遂罪ハ最モ種々ノ情狀アレハ註セズ
 第一百二條 註セズ
 第一百三條 其情狀輕

部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其價額ヲ追徵ス
 第九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
 第廿六章 殺人ノ罪
 第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス
 第一百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
 第一百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得
 第一百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑托

キモノハ儘カ一年以下ノ懲役ヲ科シ或ハ本刑ヲ免ジテ監視ノミニ付スルゴトヲ得セシム

第二百四條 第二百五條 前章ノ如ク人ヲ殺害スルノ意アリテ爲シタルニ非ラズシテ傷害スルノ意ニ出デタルモ其暴行ガ甚タシクシテ圖ラズ死ニ致ラシメル場合ナルヲ以テ有期懲役ニ處スルニ止マルナリ是レ犯罪ハ其行爲ノ當時ニ意思ノ如何ト結

ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條 第九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第廿七章 傷害ノ罪

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

果トニ因リテ處斷スルモノナレハナリ

第二百六條註セズ

第二百七條罪ノ疑ハ

シキハ輕クスベシト

云フ趣意ナルベシト

雖モ然ルトキハ犯罪

實行ト刑ノ權衡ヲ失

スルモノトシテ共犯

例ニ依リ處分スルコ

ト、爲シタリ

第二百八條本人ノ告

訴ヲ待ツテ其罪ヲ論

ズルモノトス

第二百九條舊法ハ過

失殺傷ト名ツクト雖

モ其語穩當ヲ缺クガ

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷

害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコ

ト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖トモ共犯ノ例ニ依ル

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年

以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八章 過失傷害ノ罪

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ

科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處

ス

第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル

故へ之ヲ改メテ過失
傷害ト爲シタリ

第二十條罰金ノ多
額ナルノミ

第二十一條婦女自
身ガ藥物ヲ用ヒテ墮
胎セシムル場合ノ罪

第二十三條他人ノ
勸メニ依リ之ヲ承諾
シ他人ニ其行爲ヲ爲
サシムルヲ云フ

第二十四條註ヲ要
セズ

第二十五條強制的
ニ婦女ノ意ニ反シテ
之ヲ爲ス者ナレハ其
情狀甚タ重キモノナ
ル

者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九章 墮胎ノ罪

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得ズシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

リ

第二百十六條普通ノ
者ヲ傷害スルヨリモ
其罪重キハ當然ナリ

第二百十七條遺棄ス
ルハ見捨テ、保護セ
ザルノ義ナリ之ヲ二
個ニ區別シテ一ハ無
人寂寥ノ地ニ棄テル
云フ一ハ養育ヲ爲サ
ズ打棄テ置クヲ云フ

第二百十八條直系尊
屬ニ對シテ犯シタル
場合ハ其罪重シ

第二百十九條註セズ

第二百二十條屢々述
ベタル理由ナルヲ以

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十章 遺棄ノ罪

第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十八條 老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サザルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

テ重テ説明スルヲ畧

第二百廿一條本條モ説明ヲ要セズ

第二百廿二條脅迫ハ獨リ他人ニ對スル場合ノミヲ以テ本罪ヲ構成スルモノトセズ親族ノ者ニ對シテ此害ヲ加ヘント脅迫スルトキハ本罪ヲ爲スモノトス何レノ場合ニ於テモ被脅迫者ニ於テ畏怖ヲ生ジ脅迫ニ從ヒ實行シタルト否トヲ問ハズ脅迫ノ實アレハ以テ是レ行

第三十一章

逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十二章

脅迫ノ罪

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

ハスルモノナリ

第二百二十三條單ニ言語、舉動、容姿ノ

ミヲ以テ脅迫スル場合ナラス暴行即チ腕力其他ノ物ヲ以テ脅迫スル場合ト言語ヲ以テスル場合ナリ

第二百二十四條説明ヲ要セスシテ裁判官ノ認定ニ任スモノナリ

第二百二十五條被害者ニ於テ容易ニ承諾セザルヲ以テ遂ニ偽計又ハ威力ヲ以テ誘惑シ又ハ恐怖セシメ

第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三章 略取及ビ誘招ノ罪

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘招シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘招シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘招シ

テ招取スルモノナリ
第二百二十六條註セ
ス

第二百二十七條略取
者ヲ幫助スル者ハ罪
ニ關スルナリ

第二百二十八條未遂
罪ヲ罰スルモノナリ

第二百二十九條一旦
結婚ヲ許シタルハ最
早其結婚ノ上ヨリ見

ルモ其訴訟ヲ採用ス
ベキモノニアラス犯
人ハ婚ヲナシタルト

キハ其婚姻ガ無効ト
ナルカ又ハ取消ノ訴
訟ヲ起シテ其裁判ガ

タル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被招取者若クハ被賣
者ヲ帝國外ニ移送シタル亦同シ

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被
招取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三
月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被招取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ
六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ

以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ
除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出デサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之
ヲ論ス但被招取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ

確定シテ取消サレタ
ル後ニ非ラザレハ效
ナシ

第二百三十條死者ニ
對シテ名譽ヲ毀損シ
タル場合ニ其事實ノ

ナキトキハ之ヲ罰ス
ル所以ハ死者其人ノ
名譽ヲ害スルニ非ス

ト雖モ其死者ノ遺族
ノ名譽ヲ害スルヲ以
テナリ

第二百三十一條惡事
醜行ハ摘示セスト雖
モ公然人ヲ侮辱シタ

ル者ヲ罰スルノ規定
ナリ

無效又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

第二十四章 名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實
ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金
ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣問ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス
第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘
留又ハ科料ニ處ス

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀
損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下
ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條註略

第二百三十三條信用ヲ毀損スルト其業務ヲ妨害スルトノ二個ニ分ツテ犯罪ヲ構成スル場合ナリ
第二百三十四條偽計トハ詐欺ノ計策ヲ意味シ威力トハ暴行ノ意味ニ解スベシ
第二百三十五條其種類多クシテ述ベ難シ
第二百卅六條二百卅七條罪名共ニ註畧ス
第二百三十八條罪名湮滅スル爲メトハ自

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第三十六章 竊盜及ビ強盜ノ罪

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セメタル者亦同シ

第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪ヲ跡湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ

論ス

第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八

條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

己ガ竊盜ヲ爲シタル證據ヲ滅失スルヲ云フ
第二百三十九條人ヲ昏醉セシムルトハ藥酒等ヲ用ヒテ睡眠スルニ至ラシムルヲ云フ
第二百四十條註略ス
第二百四十一條強盜ノ目的ヲ以テ家宅侵入シタル場合ニ婦女ヲ強姦シタルノ罪ニ限ラス婦女ヲ強姦シテ後チ強盜ヲナシタル場合モ包含ス
第二百四十二條註略

第二百四十三條 本條ハ新タニ設ケタル規定ナリ

第二百四十四條 直系血族トハ祖父母父母子孫ヲ謂フナリ其他ノ親族ニ係ルトキハ告訴スレハ之ヲ罪ストシタリ

第二百四十五條 供給者ノ承諾ヲ得ズシテ約束外ニ使用シタルトキハ竊盜ノ罪ヲ構成スルモノトス
第二百四十六條 詐欺取財ノ場合ヲ規定シ

第二百四十四條 直系血族、配偶者及ビ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ビ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非ザル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ビズ
第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

第二十七章 詐欺及ビ恐喝ノ罪

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲

役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘ジテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上ノ不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上ノ不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條規定ヲ準用ス

第二十八章 横領ノ罪

第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以

タルモノナリ

第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者トハ財産管理

人ノ如キ者ナリ
第二百四十八條 未成年者ハ十分ノ思慮ナ

キ者ニシテ事理ノ辨別至ラザルヲ以テ此等ノ者ヲ欺罔スルハ甚タ易キ事ナリ
第二百四十九條 人ノ財物ヲ騙取スルコトヲ目的トスル場合ヲ規定スルモノナリ
第二百五十條 及ヒ第二百五十一條ハ意義

明了ナレバ之ヲ略ス
 第二百五十二條 冒認罪及ビ受寄物財産費消罪ト同シ
 第二百五十三條 例セハ倉庫會社ガ他人ノ荷物ヲ預リタル場合ノ如シ
 第二百五十四條 註略ス
 第二百五十五條 親族間ニ於テ爲シタル行爲ハ横領ノ罪トナラス
 第二百五十六條 贓物ニ關スル犯罪ノ規定ナリ

下ノ懲役ニ處ス
 自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ
 第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百五十四條 遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス
 第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

第三十九章 贓物ニ關スル罪

第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
 贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ビ此等ハ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス
 親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第二百五十七條 別ニ說明ヲ要セスシテ親易キヲ以テ之ヲ略セリ
 第二百五十八條 人民ヨリ差出シタル書類又ハ帳簿等ヲモ含ム
 第二百五十九條 本條ハ被害者ヨリ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルモノナリ
 第二百六十條 不動産ニシテ建物又ハ艦船ノ損壞シタル者ニ付テノ規定ナリ
 第二百六十一條 本條モ亦告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百五十九條 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四十章 毀棄及ビ隱匿ノ罪

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス
 第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ質

第二百六十二條前三條ノ例ニ依ル
第二百六十三條秘密ヲ侵ス罪ノ中ニ同一ノ規定アレハ茲ニ之ヲ略ス
第二百六十四條註略ス

貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三ノ條例ニ依ル
第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス
第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

新刑法註釋終

新刑法註釋終

明治四十年五月十二日印刷
明治四十年五月十七日發行

東京市日本橋區若松町四番地

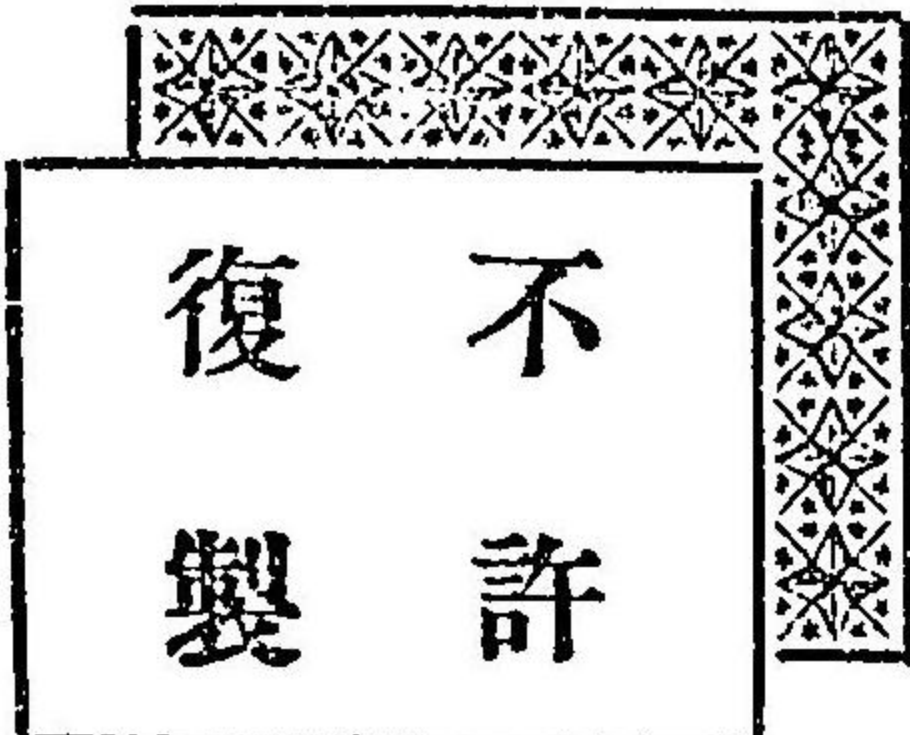
編輯者兼 湯淺 策

東京市日本橋區若松町廿一番地

印刷者 井出 五三九

東京市日本橋區若松町廿一番地

印刷所 日進 社



不許
複製

東京市日本橋區若松町四番地

發行所 春江堂

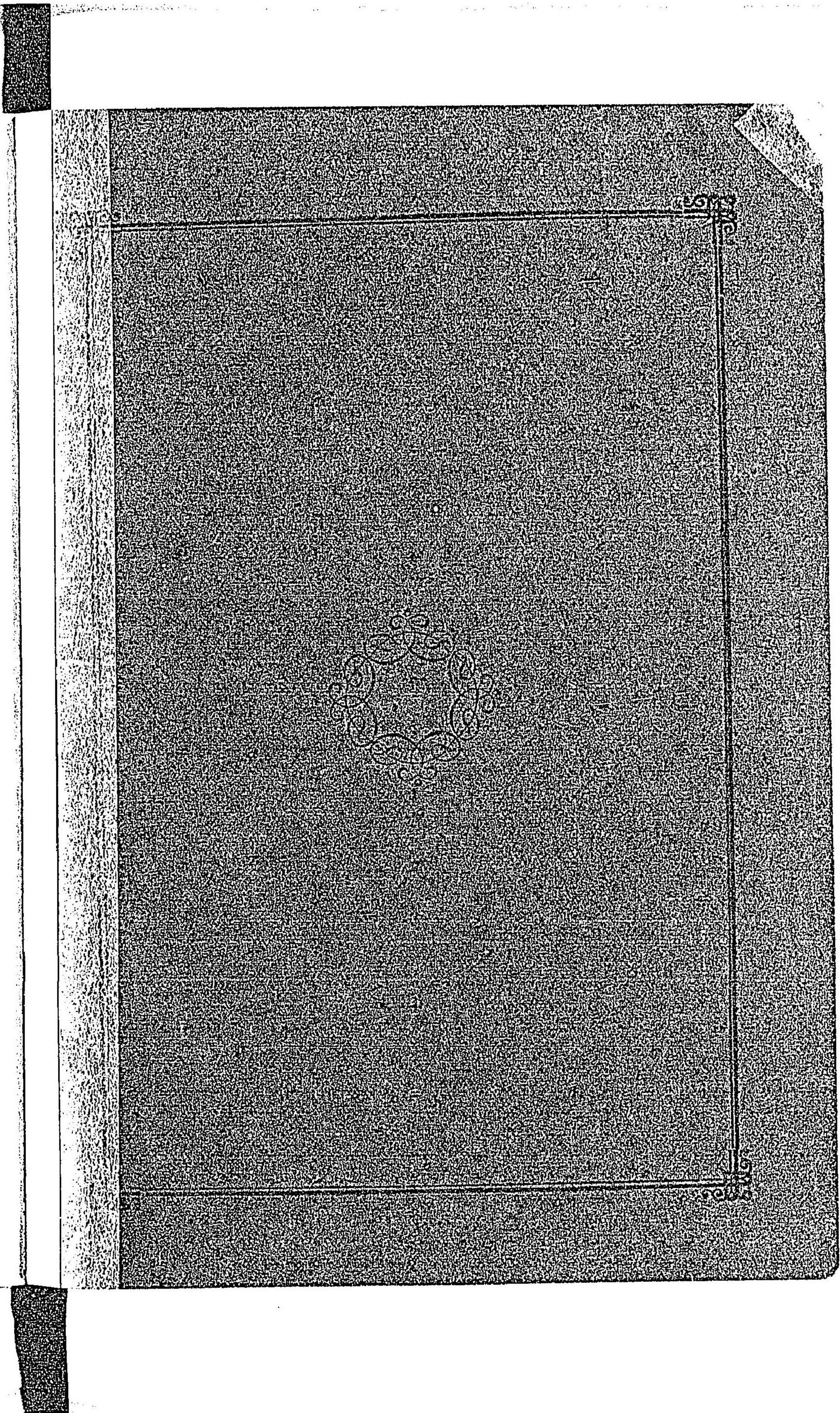
振替貯金口座 (壹千八百〇六番)

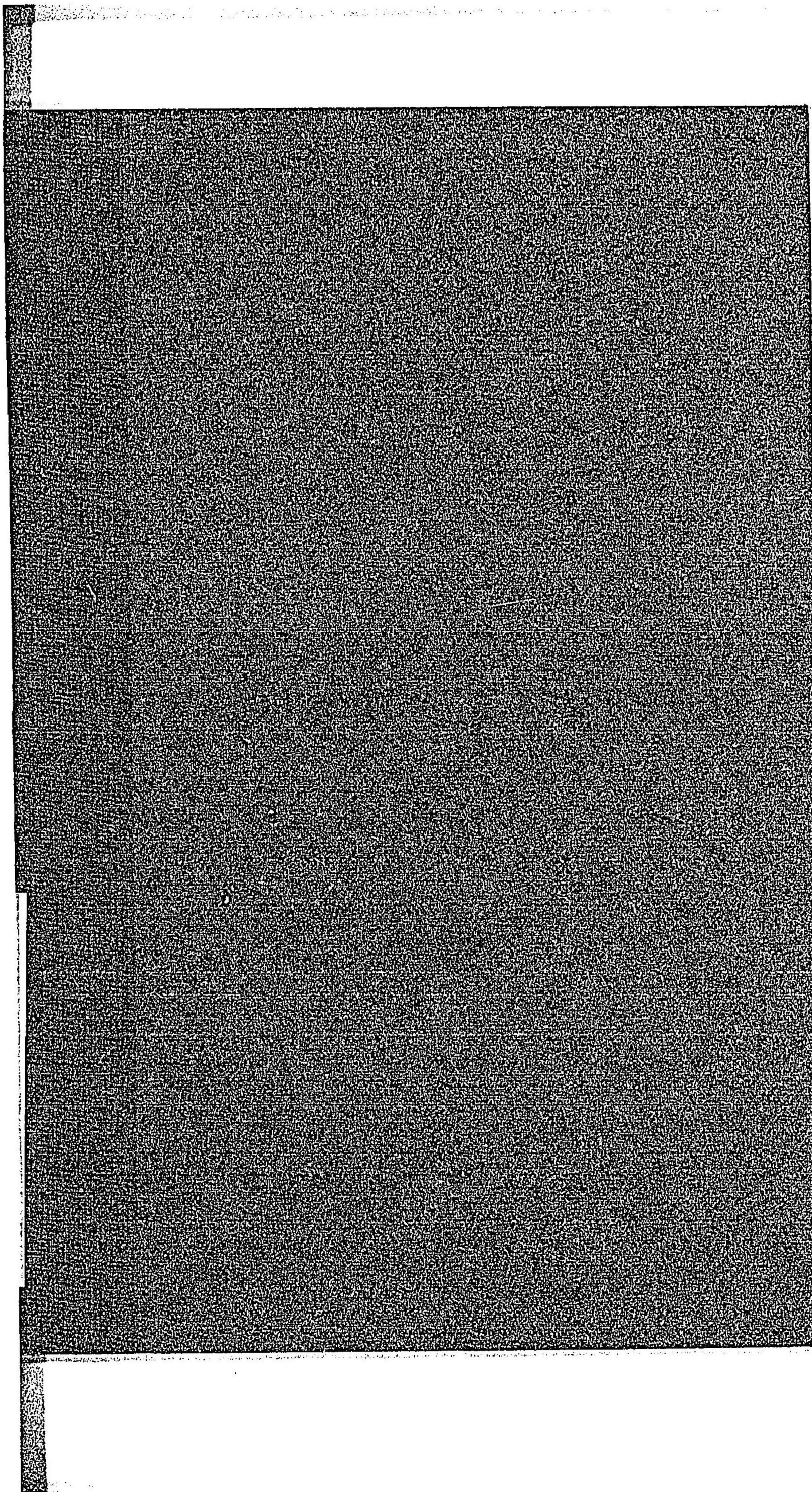
◎湯淺春江堂發行目錄

柳煙散士著
 ◎習字兼用新作文早まなび 正價金拾五錢 郵税共
 秀嶺散士著
 ◎言文一致手紙かき方 正價金拾五錢 郵税共
 睨天居士著
 ◎實地適用日本用文書 正價金拾五錢 郵税共
 中山雪子著
 ◎新編女子のてがみ 正價金拾八錢 郵税共
 柳煙散士著
 ◎はがき新作文 正價金拾錢 郵税共
 南城散史著
 ◎日用はがき作文 正價金十錢 郵税共
 秀嶺散史著
 ◎言文はがきのかき方 正價金十錢 郵税共
 南城散史著
 ◎一致はがきのかき方 正價金十錢 郵税共
 世紀新速成作文 正價金拾八錢 郵税共

◎歌曲文庫 正價郵税共各一冊金八錢
 ◎流行さのさふし ◎新流行源氏ふし ◎義太夫さわり ◎ちんくど追分ふし ◎流行浪花ふし ◎新作都々逸 ◎はうた ◎新選くどさふし ◎流行小うた ◎附二上り新内 ◎聲色大全 ◎こわい博士 ◎ハイカラあはだら ◎大流行ラッパふし ◎義太夫全書
 ◎娛樂文庫 正價郵税共一冊金八錢
 ◎新案一口ばなし ◎考物博士 ◎新作落ばなし ◎おてがる料理法 ◎一寸一口西洋料理 ◎つけものけいこ ◎滑稽頓智問答 ◎奇談妖怪ばなし ◎少年新品 ◎男女西洋獨占ひ ◎早わら二一天作附相場判 ◎なごく ◎三千題 ◎改良劍舞
 ◎聲色百番 正價郵税共拾五錢
 ◎倭文範義太夫大博士 正價郵税共拾五錢
 ◎祥の魁遊藝大會 正價郵税共拾五錢
 ◎和洋細君のおてなみ 正價郵税共拾五錢
 ◎樂天觀茶ばなし 正價郵税共拾五錢
 ◎算數學 正價郵税共拾五錢
 ◎珠算五手題 正價郵税共拾五錢
 ◎會編 正價郵税共拾五錢

252
912





特30

170

改正 新刑法註釈

国立国会図書館

036058-000-5

特30-170

新刑法註釈 (改正)

法律研究会 / 編

M40

BBP-0686

